

WHO ファクトシート

子ども：死亡率を下げるには

Children : reducing mortality

2018年9月18日

重要な事実

- ・2017年には、15歳未満の子ども推計630万人が死亡した。そのうち540万人が5歳未満であり、更にそのうち250万人は誕生1か月以内に死亡している。言い換えると毎日15000人の5歳未満死亡があるということである。
- ・子どもの早期の死亡の半数以上は、簡単で手頃な価格で行える治療や予防によって防げるものである。
- ・5歳未満の子どもの主要死亡原因は、早産に伴う合併症、肺炎、出生時仮死、下痢及びマラリアである。
- ・これらの死亡のほぼ半分は新生児で、より年齢の高い子どもたちの死亡率が下がり続けるにつれてこの割合は上がっていく。
- ・サハラ以南アフリカの子どもは、高所得国の子どもに比べて5歳前に死亡する可能性が14倍以上も高い。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Children : reducing mortality ファクトシート原文は [こちら](#)